



アーラ大型市民参加事業 「オーケストラと踊ろう！」

https://kpac.or.jp/join/okeodo_bosyu2026/



かずき（小学生低学年→大学生4年）

アールで遊んでいた、たまたま音響
の手伝い。そこから市民参加事業に。

- ・グリーンコンサート 手伝い
- ・君といた夏 出演
- ・オーケストラで踊ろう！サポーター



広報 **かに**

2016 1
No.936
Public Relations Room



専任編集

「地域の人事部」でつながる 学生とまちの未来



石黒さん

市民参加事業

「君といた夏」

「オーケストラで踊ろう」

「MY TOWN可児」



私のあしながおじさんプロジェクト

地元企業・団体・個人の寄付金で中学生・高校生へアール公演チケットを贈るプロジェクト。2015年度からは経済的支援を受けている家庭を対象としたFor Family制度も開始。2020年度からは子ども達がピアノに触れる機会を応援する「みんなのピアノプロジェクト」へも活用する幅を広げています。

対象 通年(計13公演対象)
会場 ala 主劇場・小劇場
鑑賞人数 延べ128人(うちFor family 52人)
鑑賞料 14企業・団体・個人から
計610,000円(一貫はP63掲載)
協力 可児市福祉支援課
可児市教育委員会



年に一度、あしながおじさんから児童チケットが手渡される「チケット贈呈式」(2019年度)

地元企業・団体・個人が
子ども達の舞台芸術
鑑賞機会を応援！

未来を担う中学生・高校生のしなやかな心に、音楽や演劇など舞台芸術の「感動」を有志の皆さんの寄付により届ける「私のあしながおじさんプロジェクト」は、2007年度のトライアルを経て、2011年度より継続実施しています。これまでに1,700人を超える皆さんが本プロジェクトにより公演を鑑賞しています。

2015年度からは可児市協力のもと、ひとり親などで児童扶養手当や就学援助を受けている家庭を対象としたFor Family制度も

開始しました。For Family制度では、家族で鑑賞することで思い出を共有しそこから会話が生まれてくることを願い、小学生以上の子ども達と保護者の方へもチケットをお贈りしています。For Family制度を開始した2015年、「森山威男ジャズナイト」を家族で鑑賞したお母様からお手紙をいただきました。

アールでは色々な公演が行われている事は知っていましたが、母子家庭であり、小さい子ども達を連れて来ることは困難でした。今回の

鑑賞が輝き、一つひとつの楽器に興味を持っていました。「僕は2番目の曲が良かった」「ドラムを叩く人はすごいね!!」子ども達から色々な意見が聞け、興味の幅が広がったのではないかと思います。本当に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。皆さまには感謝の一言につきます。また生かされている事にも感謝を感じました。



プロジェクトで公演を鑑賞した子ども達や保護者の方からのお手紙は、寄付をしてくださった、あしながおじさんに届けられます。同じ地域に住む子ども達の心が揺さぶられる機会を応援するために、そして生きづらさを感じている方々の心が少しでも元気になりまた前を向いて歩いていけるように、この寄付金には、「一緒に頑張ろう!」という温かいエールも込められているのだと実感するお手紙でした。

2021年のクリスマス・イブには、コカ・コーラ社より「あしなが自販機」がアール駐車場に設置されました。購入金額の20%が子ども達のチケット代に充てられます。普段の何気ない購入行為でも子ども達を応援することができる。一人ひとりの思いやりが積み重なって支え合える。プロジェクトがそんな地域の関係づくりの一翼を担うことができればと思っています。



プロジェクトを知ったきっかけは、市役所の相談員さんからのご紹介によるものでした。現在の私は、ある疾病により休職中の身であり、またその中で2人の子どもの事で悩み、行き詰って心に余裕がない状態です。そんな中で、「あしながおじさんプロジェクト」を知り、以前から興味があったジャズコンサートに応募させて頂きました。初めて子ども達と一緒にコンサートというものに参加することができました。7才と9才の子ども達の反応がとても楽しみでした。その一言目が「すごい!!」でした。2人の

アールまち元気部

学校の枠をこえてアールに集まった中高生達が、地域のさまざまな人達と交流しながら、まちを元気にしていく部活動。



家と学校の間にある
もう一つの居場所

近年の教育現場は、学校の働き方改革を推進する目的で、学校部活動の外部化を推進しており、地域の中で持続的な文化芸術活動が子ども達に行われることが求められています。この流れを受けて、これまでのプログラムを活かして子ども達、そして地域の繋がりを回復を軸とした多世代交流の取り組みとして、「アールまち元気部」という活動が立ち上がりました。



こはな
中学1年生

私は学校の部活に入っていて、ボランティア活動などに興味があって参加しようと思っていました。まち元気部に参加できて本当に良かったです。このメンバーと出会えたり、将来のために活かせる体験ができた、普段出会えない人と出会えたり、この1年間、本当に楽しかったです。来年のまち元気部にも絶対に参加しようと思っています。いろんなボランティア活動に参加したり、いろんな人の手助けになる活動ができればと思っています。



6月～2月 活動回数 66回
2/26 会場 ala 映像シアター
45人 参加費 延べ316人
可児市、可児市教育委員会
可児市教育研究所、可児写真館
(株)可児市社会福祉協議会
文学座、FMラインウェブ(株)
令和さくら高等学院
NPO法人alaクルーズ、新井英夫
板垣記代子、ごちゃまぜアートの会
NPO法人可児市国際交流協会 ほか



はづき
中学1年生

私がこのまち元気部に入って特に楽しかった活動は「ハッピーチルドレン」という活動です。この活動は小学生の子達と一緒に遊ぶ活動で、子ども達が楽しそうに遊んでくれるのを見て嬉しい気持ちになりました。また、この「ハッピーチルドレン」は可児高校の生徒達が中心となって活動していて、高校生の人が、こんな風に自分達で活動をしていてのを見てからいいなって思いました。私もそんな活動をしてみたいなって思いました。学校とは違った活動ができて、新たな発見があったりするのがこのまち元気部だと思っています。この活動をたくさんの人に知ってもらいたい気持ちです。来年はPRグッズを作ってみようと思います。



ゆうら
中学2年生

活動の中で一番印象に残っているのは「劇場たいけんツアー」のスタッフをしたことです。この活動をする前は身近にあるアールのことをあまり知らなかったのですが、小学生の子ども達に案内する中で、今まで知らなかったアールのことや魅力について知ることができました。まち元気部の活動では、多くの人と関わることができ、この活動に参加しなかったら出会うことがなかった他の学校の子達とも仲良くなることができました。そして、他では体験できない、知ることができないことを経験することができました。私にとってまち元気部は大切な居場所になりました。

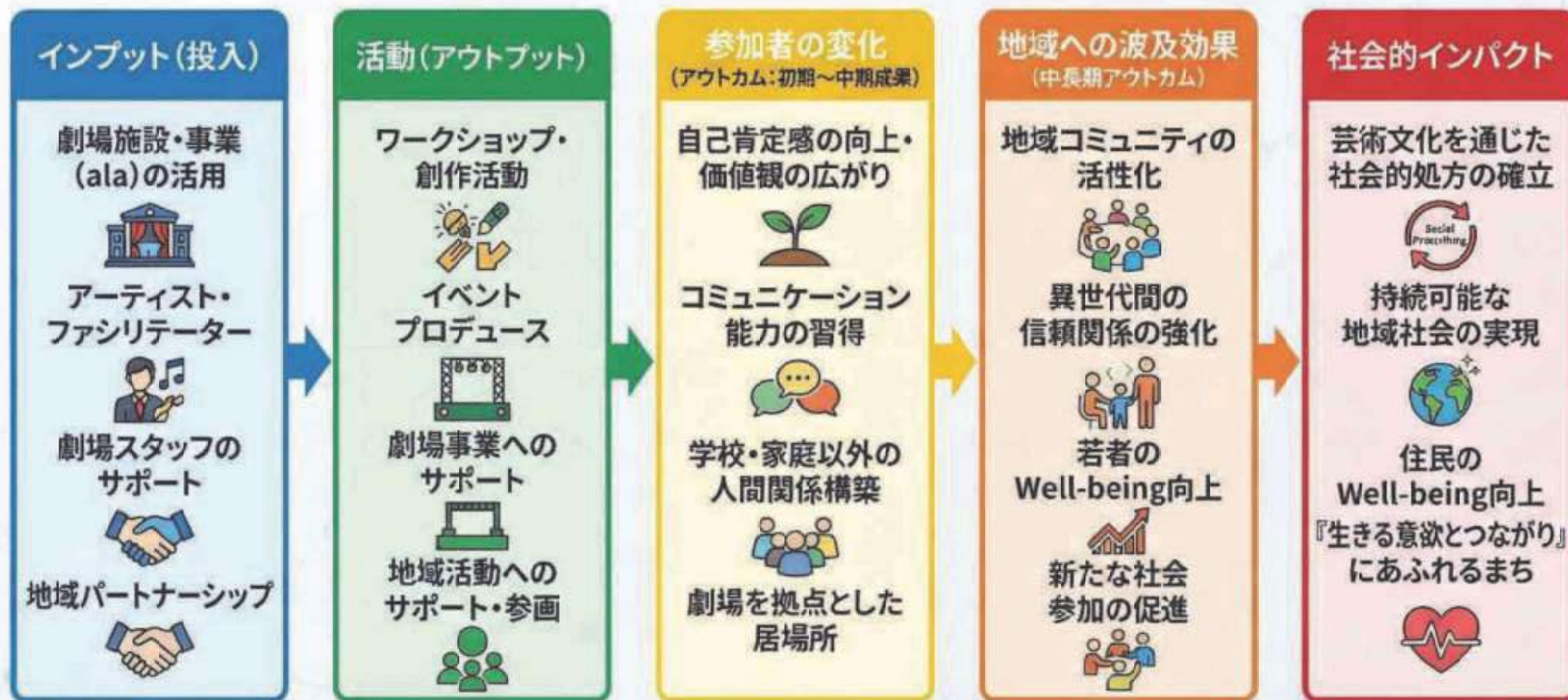


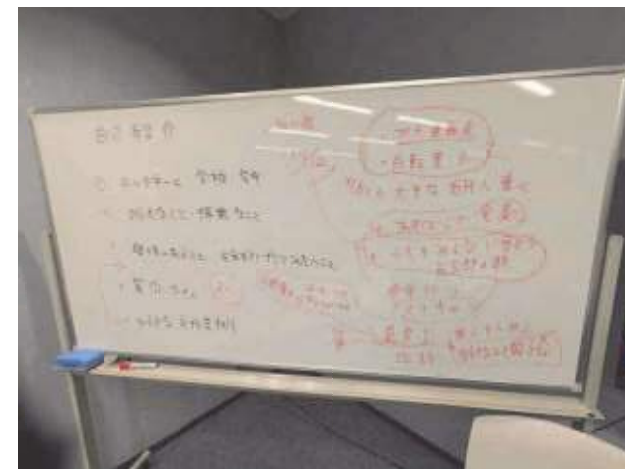
めぐみ
中学1年生

まち元気部では、FMからラジオ番組に出演したり、イルミネーションの製作を行いました。今まで体験したことのないことに挑戦することができました。また音楽、学校とか習い事以外で友達と関わることがなかったんですけど、まち元気部があることで他校の新しい友達ができたり、アールに関係している人達と出会うことができました。今までは少し怖いイメージもあったんですけど、まち元気部の活動を通して、劇場に行く機会が増えて、身近なものになりました。



「アーラまち元気部」ロジックモデル：地域と若者を繋ぐハブ





アールまち元気部 オリエンテーション&企画MTG



カニミライブ図書館 「こどもと一緒に育つフェス」



ごちゃまぜアート食堂



まち元気部

みかさん・ごちゃまぜアートとの出会い

ハロウィンイベントやりたい！ごちゃまぜアートの会に出会う
その後、ごちゃまぜアートの会と元気部は一緒に活動することが多くなる。
出会いに自分が関わっていることを嬉しそうに語ってくれる



ごちゃまぜアートの会

● ごちゃまぜアートの会とは？

年齢、性別、国籍、障がいの有無に関係なく、
どなたでも参加可能なアートの場を創っています♪
アートとは、絵を描く、音を奏でる…だけでなく、
自分を表現すること。

できることも、できないことも、やることも、
やらないことも、すべて自己表現であり、アート！
日常生活でつくっていた良し悪しのモノサシが
ひっくり返る！

誰もが「自分に生まれてよかった！/」と思える社会を
目指し、可児市で活動しています！



ファシリテーター



可児市社会福祉協議会



まち元気部



まち元気リンクワーカー





公演フロントスタッフ





まち元気EXPO 「忍者ワークショップ」





イチゴイチエフェス





まち元気部ラジオ





「こよみのよぶね」製作





可児市の歌づくり





下呂アートディスカバリー 9/10-20
廃校でのアートワークショップ&展示



可児市の観光名所体験





あおはるライブ 改め 『あおはるSTAGE』 ！



先進的な取組みを学び + ワークショップ体験

まち元気サポーターは、文化芸術や劇場のコミュニティプログラムを介して、地域の人と人、地域と人を結びつけるために活動。

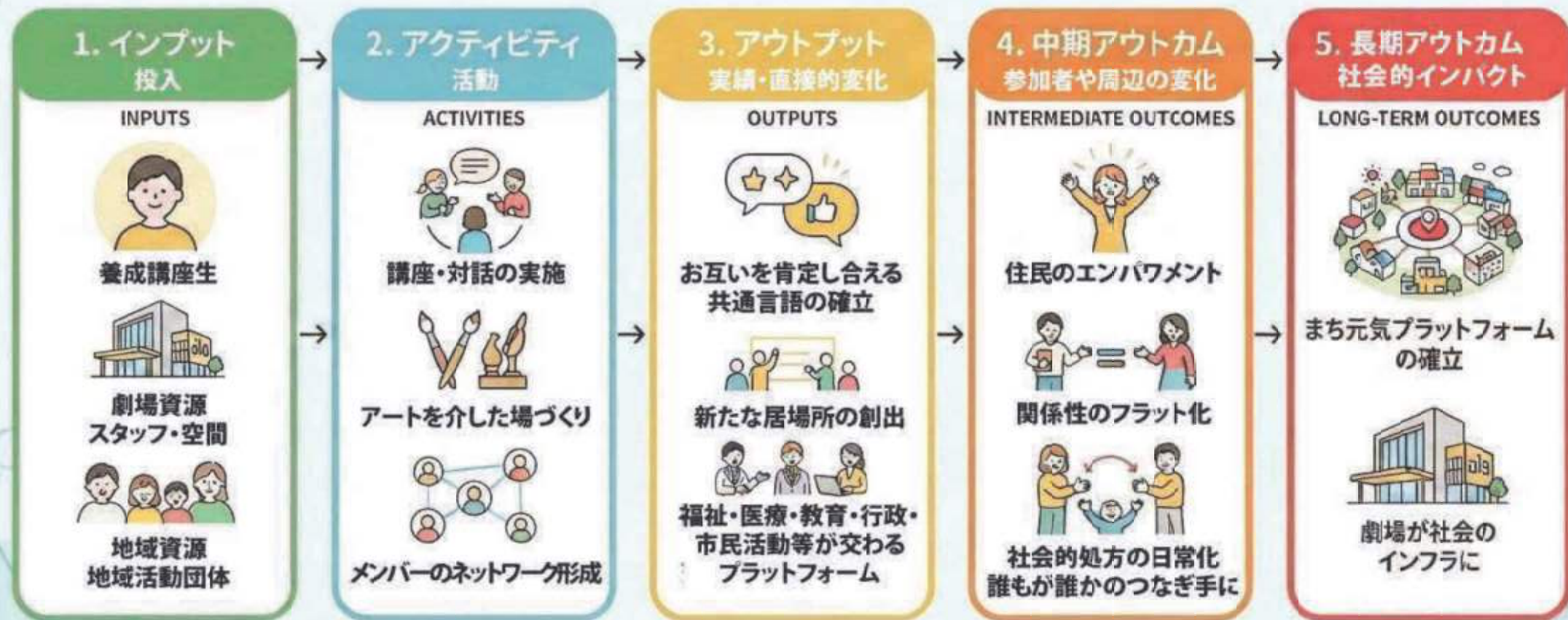
●具体的な取組

あそび場の創出（例：集まれ！alaまち元気あそび隊）
 子どもから大人までがフラットに交わるイベントを企画。
 自分たちの興味ある分野で場づくりをした。手織り機、音の工作室、窓へのお絵かきなど、アートや表現を交えた多様なプログラムで市民同士のつながりを生み出す場づくりを行いました。



まち元気リンクワーカー ロジックモデル

Machi Genki Link Worker Logic Model





先進的な取組みを学び + ワークショップ体験

アーラが、これまで培ったさまざまな文化芸術プログラムと地域内の人的リソースを最大限に活かして行う「文化芸術版社会的処方箋活動～『まち元気プラットフォーム（持続可能な地域の支え合いのネットワーク）』」の本格的な構築を支える“市民リンクワーカーの育成”を目的とする。

A1 オンラインレクチャー
7/10 19:00-20:30
社会的処方箋の現在地と、文化的処方箋の可能性について
講師 西智弘
川崎市立井田病院医師／一般社団法人プラスケア代表理事

B1 オンラインレクチャー
7/15 19:00-20:30
人と人をアートでつなげる価値と、アート×医療の事例紹介
講師 森合音
四国こどもとおとなの医療センターホスピタルアートディレクター／NPOアーツプロジェクト代表

C1 オンラインレクチャー
7/18 19:00-20:30
アートと地域社会で織りなす景色ー県内文化施設の事例
講師 鳥羽都子
岐阜県美術館 学芸員

※リアルタイム参加できない方は、後日、配信映像でご覧いただいた上で下記のグループワークにご参加ください。

D1 対面レクチャー&グループワーク(120分)
7/27 10:00-12:00 + ランチミーティング
まち元気プラットフォームとリンクワーカーについて
講師 澤村 潤
川崎市文化創造センター事業制作課 まち元気部長

C2 対面グループワーク(120分)
8/4 10:00-12:00 + ランチミーティング
講師 鳥羽都子
岐阜県美術館 学芸員

E1 対面グループワーク(120分)
8/11 10:00-12:00 + ランチミーティング
講師 西智弘
川崎市立井田病院医師／一般社団法人プラスケア代表理事

F1 対面グループワーク(120分)
8/31 10:00-12:00 + ランチミーティング
講師 森合音
四国こどもとおとなの医療センターホスピタルアートディレクター

コーディネーター：半田将仁・松浦正和(川崎市文化創造センター)

ミーティング編 全6回

9月～2月は、毎月企画ミーティングを開催。2025年度に川崎市文化創造センターで実施予定の「まち元気EXPO」の文化芸術を用いたつながりづくりの企画検討。

① 9月15日(日) 10:00-12:00 + ランチミーティング	④ 12月21日(土) 10:00-12:00 + ランチミーティング
② 10月19日(土) 10:00-12:00 + ランチミーティング	⑤ 1月25日(土) 10:00-12:00 + ランチミーティング
③ 11月23日(土) 10:00-12:00 + ランチミーティング	⑥ 2月8日(土) 10:00-12:00 + ランチミーティング

活動成果発表! 3/22 10:00-12:00 + ランチミーティング
 企画内容を決定し、プログラム成果発表会を実施(全3～4グループ開催想定)



まち元気 E X P O 2025 生きる活力・人とのつながり～文化芸術を社会に活かす



まち元気 EXPO 2025

アートワークショップ見本市

2025.7.27 日 9:00~17:00

〈7.26もイベントあり〉

可児市文化創造センター ala 全館

岐阜県可児市下道土3-33-128

入場無料

早期開催 531e 2025
「531e」は「5月31日」の略で、5月31日まで開催します。

可児市文化創造センター ala
インフォメーション

Tel.0574-60-3050
受付時間 9時～16時（最終受付 15時）

 @ala2025  @ala2025

可児市文化創造センター ala

1階 1000 岐阜県文化庁 2階 2000

TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3320

<http://ala2025.jp>
ala@ala2025.jp

QRコード



アート 見本市



可児市文化創造センター
岐阜県可児市下道土3-33-128

[illegible][illegible][illegible]

アーラがこれまで取り組んできた社会包摂型事業「アーラまち元気プロジェクト」の活動を、一日にギュッとプログラムを集約してたくさん体感してもらうためのワークショップ見本市を開催しました。

まち元氣リンクワーカー企画
写真展「私の一枚」

いろんなみんなのアート展

白熊輝二さんと「いろんなみんなの
アート展」を鑑賞する会

国際演劇
サマースクール発表会

あかちゃん親子の
アールであそぼ

ココロとカラダの
健康ひろば

映画「目の見えない白熊さん・
アートを見に行く」

新井英夫「ほくす・つながる・つくるー
ダンスとケアの出会いを通して」

まち元氣リンクワーカー企画
コンシェルジュ

朝のリズムアップ！
みんなでハッピー体操

「浜市市民音楽組」演奏

アール紙芝居一座
紙芝居

アツタフ・バーボン
忘名ワークショップ

座談会「まちが元気になる処方箋」

みんなのディ

太田さんさん音頭

デキデキアート！
切り絵で広がる世界

朝市とカフェの
ごきげん日和

オープンアトリエ

もう一人の自分に大变身！

多文化共生プロ
「REHOME」

アートによる社会包摂の取組
ポスター展示

コンシェルジュ

夢みる校長先生
KAWABATA



3期からはフィールドワークでリンクワーカーの活動を
みんなで見学（参加）しました。

高齢者サロン「三々五々」

こども食堂×アート「ごちゃまぜアート食堂」

現在のメンバーは、

医療・福祉従事者（理学療法士、助産師、施設職員など）、
教育関係者（教員、PTA）、市役所職員、NPO団体、会社員
、大学生、高齢者サロンの関係者などに加え、「まち元気部」
の中高生たちも交わる多様なネットワークへと広がっています。

アーラのHP <https://kpac.or.jp/linkworker/>

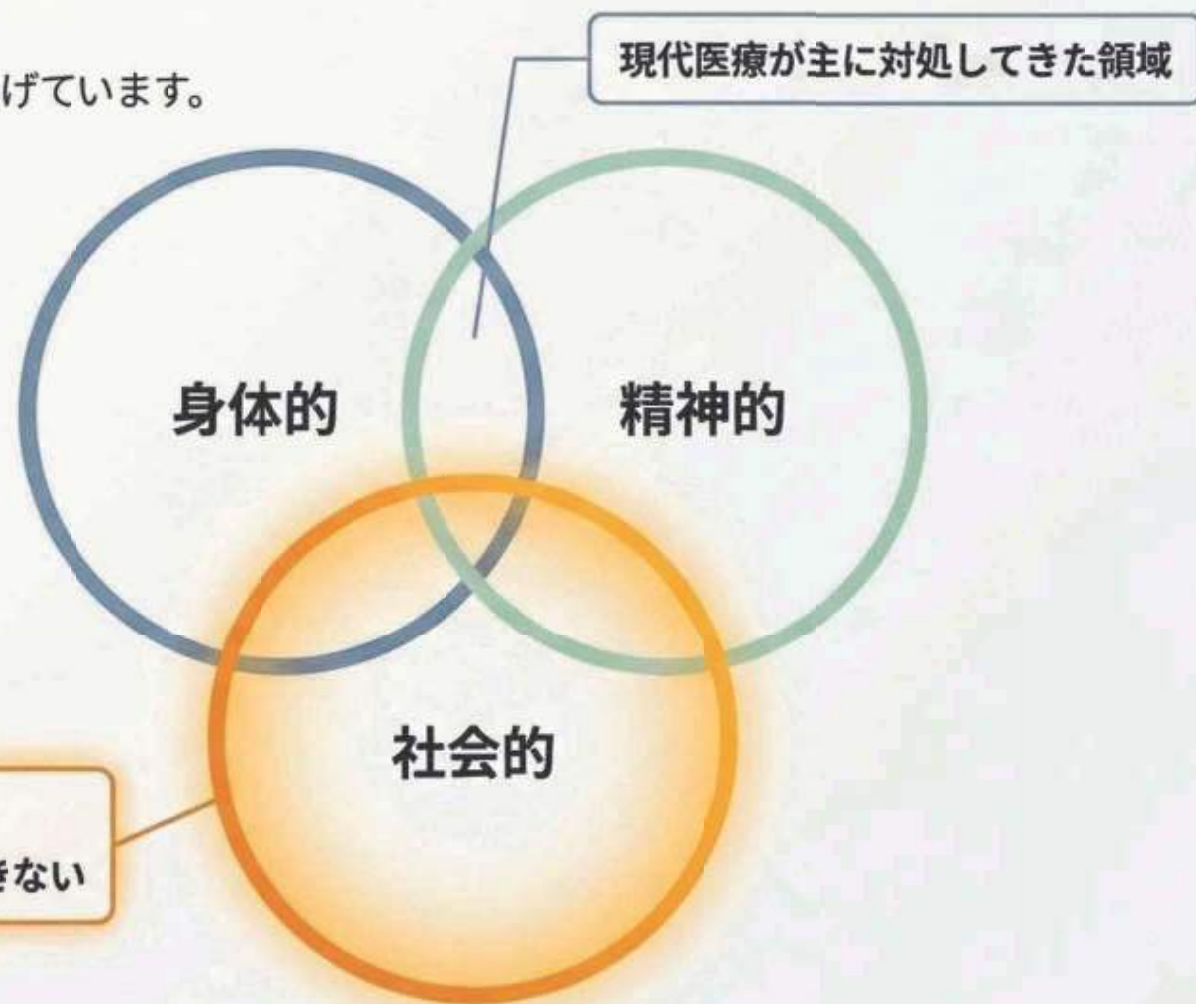
リンクワーカー活動紹介 https://lit.link/ala_linkworker



WHOが定義する「健康」の3つの条件

病気がないことだけが健康ではありません。

WHOは「社会的に良好な状態」を必須条件として掲げています。



社会的処方を支える3つの基本理念



人間中心性

患者をリスペクトし、本人の視点に立って社会資源と繋いでいく。

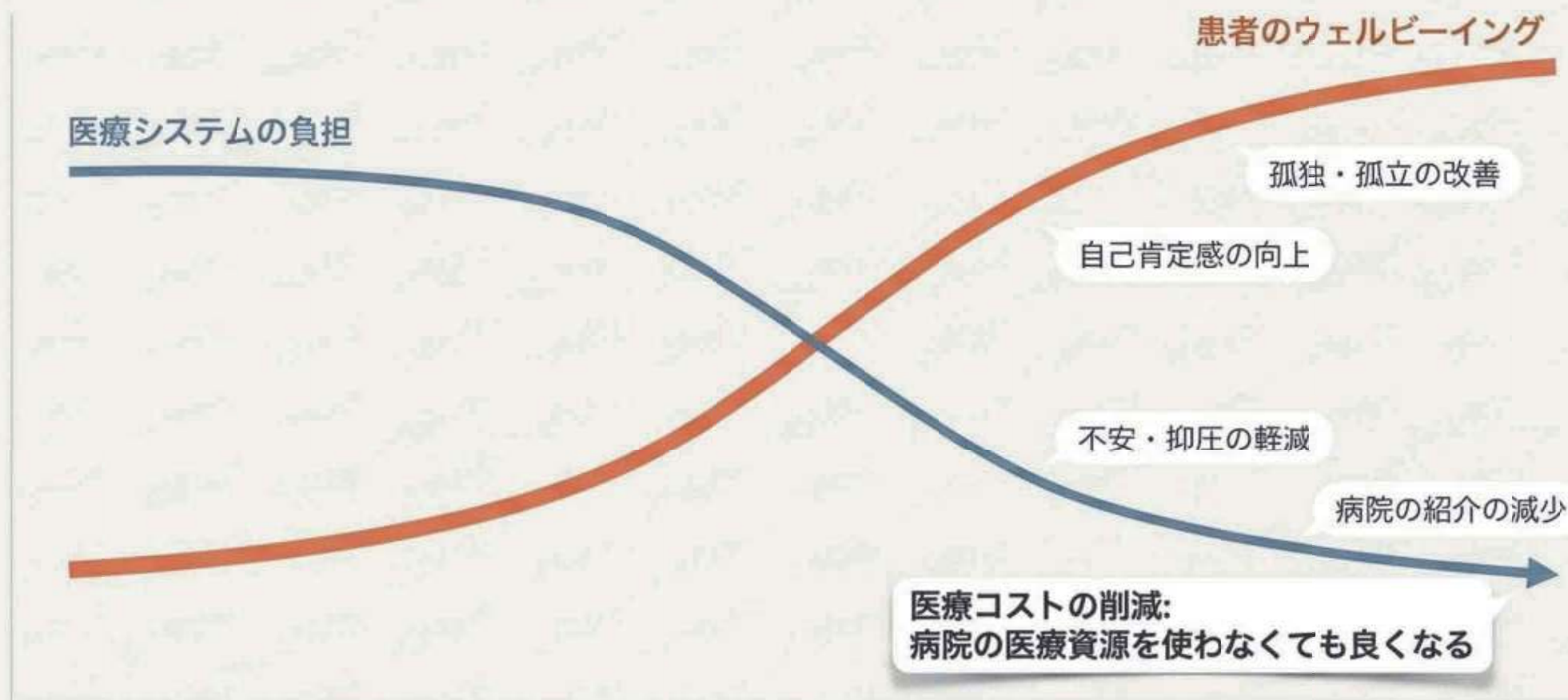
エンパワメント

その人本来の力を引き出す。

共創

多様な立場の人と対話をしながら、個々に合う持続的な解決策を共に創り出す。

医療と個人の双方にもたらす劇的な効果



なぜ、スポーツは日常にあり、アートは非日常なのか。

スポーツは健康維持や趣味として生活に深く根ざしています。
一方で、アートは未だ「余裕のある一部の人の高尚な趣味」という
誤解に縛られ、日常的な体験から遠ざけられています。



WE ARE ABOUT PEOPLE

私たちは人のために仕事をしている。

アーラ



www.kpac.or.jp

まち元気プロジェクトレポートBOOK

